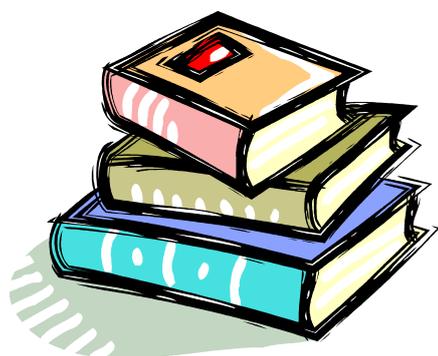


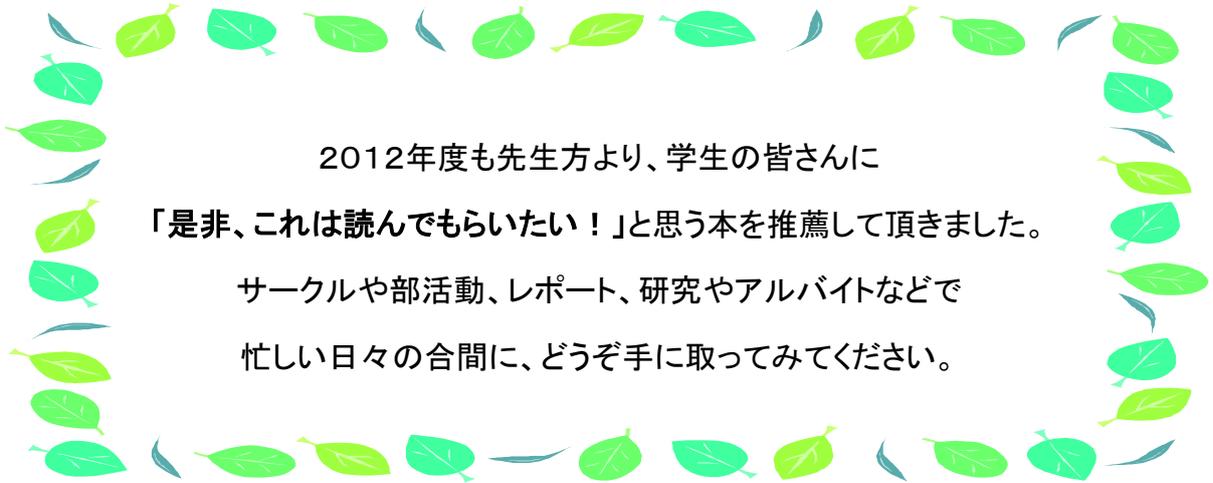
2012年度

コレクション

「君に薦める1冊の本」



大阪工業大学図書館



2012年度も先生方より、学生の皆さんに

「是非、これは読んでもらいたい！」と思う本を推薦して頂きました。

サークルや部活動、レポート、研究やアルバイトなどで

忙しい日々の合間に、どうぞ手に取ってみてください。

『先端技術と日本経済』 三橋規宏著 岩波書店

502.1||M 91122262 (大宮本館)

081||I||232 98121154 (枚方分館)

少し古いが、日本経済に影響を与える新技術という側面から、重要な技術を選んで紹介している。特に、90年代の多品種少量生産体制の確立、製造現場での無人工場への挑戦やヒューマンテクノロジー、日米技術摩擦、三つのハードルと経済を支える新技術群などのトピックスが取り上げられており、内容を新しくすれば10年代にも役に立つだろう。

【機械工学科 加藤 誠先生 推薦】

『何でも見てやろう』 小田実著 講談社

290.9||O 91121859 (大宮本館)

1958年、26歳の若者がアメリカに留学し、その後、メキシコ、ヨーロッパ、アジアを貧乏旅行しながら、自分の頭で考えたことが書かれています。高校の時に読んで、大学時代の行動方針を「何でも見てやろう」にしました。いろいろな地域の人々の暮らしを直接、体感してみようと思い、国内、ヨーロッパ、東南アジア、旧ソ連を、リスクに配慮しつつ、安宿を使って、一人旅しました。この本との出会いは、私の学生生活を大きく変えました。

【知的財産学科 廣田 義人先生 推薦】

『すこやかな生き方のすすめ』 桜井章一・よしもとばなな著 廣済堂出版

159||S 91123747 (大宮本館)

159||S 98121147 (枚方分館)

「人が人として生きることは、それだけですごい」(p203)。ともすれば陳腐にも響くであろうこの言葉が、幾多の試練を乗り越えてきた雀鬼・桜井氏の口から出ると、しみじみと納得してしまいます。この本は、自然界の中で生きている人間の大変さ、面白さ、不思議さを背景に語られる、お二人の肩肘張らない対談です。

皆さんもぜひ、私たち人間の持つおかしみを味わってみてください。

【総合人間学系教室 大谷 真弓先生 推薦】

『絶望の隣は希望です！』 やなせたかし著 小学館

726.101||Y 91123749 (大宮本館)

726.1||Y 98120723 (枚方分館)

著者のやなせたかしは、「正義とは決して格好良くなく、自分も深く傷つくもの」というメッセージを込めて、アンパンマンを世に送り出した。絵本のほのぼのとした印象とは裏腹に、やなせ自身は幼いころに父を亡くし、戦争で弟も失った苦労人。漫画家としても中途半端で、絵本作家として売れ出したのは五十代に入ってからである。その彼がこの本で訴えるのが、「人生で何をしたらいいのかという事をすぐに見つけられなくても、絶えず探し続けていることが大切なのである」という事。亡きスティーブ・ジョブスも、これとほぼ同じ主旨の事をスタンフォード大学での演説で述べているので、比べてみてほしい。

【情報ネットワーク学科 矢野 浩二郎先生 推薦】

『量子力学的世界像(朝永振一郎著作集 8)』 朝永振一郎著 みすず書房

420.8||T||8 08303179 (大宮本館)

420.8||T||8 80103011 (枚方分館)

ノーベル物理学賞受賞者である朝永の著作のなかで一般向けで特に有名な「光子の裁判」という話がこの巻に所収されている。量子力学における光の二重性(粒子なのか、波なのか)の概念を、波乃光子の裁判という形で解説したものだ。私が高校生のとき、学校の図書館で見つけ、そして理論物理学を志すきっかけになった本の1冊である。

【情報システム学科 真貝 寿明先生 推薦】

『空白の天気図』 柳田邦男著 文芸春秋

369.33||Y 91123866 (大宮本館)
080||B 98120729 (枚方分館)

昭和二十年九月、敗戦後間もない日本を未曾有の暴風雨が襲った。その名も枕崎台風。「もたらした被害また広島県の死傷行方不明三〇六六名をはじめとし…」なぜ広島で……。人類最初の原爆による惨禍から、わずか一カ月。廃墟の街で、人々はどのような災害に巻き込まれたのか。気象台は何をしていたのか。綿密な取材によって明かされる、天気図の空白に秘められた知られざる真実。

【教職教室 半田 孝先生 推薦】

『精神科医は腹の底で何を考えているか』 春日武彦著 幻冬舎

493.7||K 91123977 (大宮本館)
081||G||107 98120728 (枚方分館)

精神科医が実際に様々な患者と関わった経験を基に書かれています。軽妙な文章で読みやすく、少し皮肉が効いているので面白いです。それでいて、読み終わってみると著者のプロ意識や人間への愛情がそこはかたなく伝わってくる気がして、静かに感動します。

【電気電子システム工学科 吉田 恵一郎先生 推薦】

『きけわたつみの声:日本戦没学生の手記』 日本戦没学生記念会編

岩波書店

916||N||1 91123748 (大宮本館)
080||I 98120730 (枚方分館)

本書は、最後まで鋭敏な魂と明晰な知性を失うまいと努め祖国と愛する者の未来を憂いながら第二次世界大戦（太平洋戦争）で死んでいった学徒兵（学校に籍をおいたまま動員された兵）の遺言状です。経済のグローバル化で第2の開国に直面する現在、論理的思考に基づいた理性と意思決定の重要性を学ぶ絶好の書籍として、学生諸君に一読を勧めます。

【電子情報通信工学科 矢野 満明先生 推薦】

以上の図書は大宮キャンパス・枚方キャンパスともに、
図書館の「君に薦める1冊の本」コーナーに展示しています。